

令和2年度第2回秋田県青少年健全育成審議会
会議録

日時 令和3年1月20日（水）午前10時00分～午前10時50分
場所 秋田県議会棟正庁

1 出席者

○ 秋田県青少年健全育成審議会委員（敬称略、五十音順）12名

東 湖 都	秋田県BBS連盟 会員
石 黒 泰 成	秋田少年鑑別所長
岩 崎 通 子	秋田県ボランティア団体連絡協議会員
笈 川 正 典	秋田弁護士会
金 田 早 苗	学校法人聖霊学園 理事
熊 谷 隆 益	公益社団法人青少年育成秋田県民会議 会長
熊 谷 嘉 隆	国際教養大学 副学長
齋 藤 和 彦	秋田県青少年団体連絡協議会 会長
土 田 いづみ	公募委員
長 門 里 香	秋田県小学校長会 秋田市立豊岩小学校長
濱 田 純	秋田大学客員教授
松 倉 里 美	秋田県警察本部生活安全部少年女性安全課少年サポート係長

○ 事務局

あきた未来創造部長	高 橋 修
次世代・女性活躍支援課長	信 田 真 弓
次世代・女性活躍支援課政策監	新 号 和 政
同課主幹（兼）班長	伝 農 満
同課副主幹	鈴 木 矩 秀
同課主事	田 中 登 子
同課主事	今 泉 一 樹

進 行	内 容
事 務 局	1 開会
事 務 局	2 あきた未来創造部長 あいさつ
事 務 局	3 第3次あきた子ども・若者プラン案について
会長	<p>ありがとうございました。時間の都合で要点のみの説明とさせていただきます。委員の皆様には、全てのステージを含めてのご意見をいただきたいと思いますと思いますが、何かありますでしょうか。</p> <p>はい、濱田委員どうぞ。</p>
濱田委員	<p>プラン案を拝見し、全体的に意見が反映され、具体的になったという印象があります。今日は最後なので、二点ほど気づいたことをお話ししたいと思います。</p> <p>1点目は、GIGAスクール構想が前倒しで実施されたことによって、現場で全国的に様々な課題が出ていることです。情報モラルをあまりにも意識しすぎることで、児童生徒がタブレットを使いづらい状況が生まれているようです。例えば、タブレットは全て一つの棚に鍵をかけて置いておき、それを使う時には一斉に配る、ということで、とても時間がかかり困る、と言う校長もいらっしゃいます。一方、子ども達の端末にフィルタリングをかけるのは当然ですが、子どもたちが使い勝手がいいようにしてから、だんだんと授業に取り入れていくという学校もありますので、あまり学校や教育委員会で縛りをかけてしまうと教師の負担がさらに増えてしまうと感じます。前倒しして4月からやらなければいけないので、どうかこの点についてもう一度具体的な検討をお願いしたいと思います。</p> <p>2つ目は、各部署で検討し、整理されたと思うのですが 文言の整理で気になる部分があります。もう一度、文言が統一されているか、見直してみてもいかがでしょうか。例えば、気が付いたのは11ページの上のグラフです。ここでは、「県内児童・生徒の情報端末所持率」とあり、すぐ下の文章では「県内児童生徒のインターネットや」、とあり、中ポツがついているものについていないものがあります。また、細かいとこ</p>

ろですみませんが、学校教育法で学齢児童と学齢生徒を分けておりますので、その点の扱いを確認してほしいと思います。関連していますのは、37ページの下から3行目、「さらに、全ての小・中学校等に児童生徒一人一台ICT端末」と書いてあります。しかし、47ページを見ますと、真ん中に、「また、全ての生徒にタブレット端末」となっており、ここは生徒だけになっています。このような書き方ですと、中学校しか当てはまらなくなりますので、細かいところですが、文言の整理を今一度お願いしたいと思います。

会長

はい、ありがとうございます。

1点目のGIGAスクール構想に関しては、部会でも色々な問題点が指摘されました。そもそも、先生達のリテラシーを強化しないと生徒たちもかなり混乱するのではないかという意見もありましたので、ここは教育委員会を通して、もしくは皆さんで情報共有をして、どのようにすれば良いのかということを経験しつつ実施することだと思いますのでよろしくをお願いします。

教育庁
総務課

GIGAスクール構想の前倒しによる1人1台タブレット端末整備については、これまでもご意見をいただいたところであります。今年度中に、小・中学校、高等学校、特別支援学校に1人1台端末が整備されるということで、その活用に向けて様々な準備を進めているところです。特に、児童・生徒へ指導をする教員の研修については、県立学校ではICT活用推進委員会を設置し、教員研修の充実に取り組んでるところであります。また、小・中学校におきましても、それぞれの市町村で、教職員向けの研修を進めており、県教育委員会としてもその研修等についての支援を行っているところです。前倒しで整備が進んだということもあり、4月当初からの十分な活用はなかなか難しいと思います。現場の先生方に活用していただきながら、課題や成果等を聞き、子供たちの学びを深めるための活用を一層進めていきたいと考えております。

会長

濱田委員よろしいですか。

濱田委員

今、家庭の話が出ませんでした。フィルタリングをかけて、これを学用品として位置づけた場合には、端末を使用するために家庭でのwi-fiの整備などについても問題になると思います。これはある県の例

	<p>ですが、保護者の中には、なぜwi-fiの整備を自分の家でやらなければいけないのか、と考える方もおり、経費の問題など様々な課題が生まれてきますので、その辺もどのように扱うのか、よろしくお願ひしたいと思ひます。</p>
会長	<p>金田委員、どうぞ。</p>
金田委員	<p>内容を拝見しまして、様々な背景を持つ子ども、支援を必要とする子どもに対して、細かいシーンをよく検討されていると思ひました。</p> <p>今話題になりましたデジタル化の関連で、SNSなどでもトラブルがあるようですが、関連してこの41ページのいじめ関連の件数の中には、こうしたSNSが関係しているものがどのくらいあるのか分析されているでしょうか。</p> <p>もう一点は、濱田委員からもお話が出たGIGAスクール構想の前倒しということで、47ページの「全ての生徒」というところは、思春期の項目のところなので、私は高校生のことだと思ひていました。「全ての生徒」ということではありますが、県立高校は県が整備を進めていますけれども、高校生の1割は私学で学んでおりますので、是非そうした私学の生徒にも目配りをしていただき、今後の計画で整備していただきたいと思ひます。</p>
会長	<p>はい、ありがとうございます。今、質問のありましたSNSのいじめに関するデータはお持ちですか。</p>
教育庁 義務教育課	<p>本県では、「携帯電話、インターネット利用実態調査」を毎年行っております。ネットトラブルにあった児童生徒の割合は小・中学校合わせて約4％となっており、昨年度に比べて1.5ポイント増加しています。しかも、皆さんご存知のとおり、ネットトラブルについては、なかなか発見するのが難しい問題でもあります。委員の皆様からご意見があったとおり、発見しづらいSNS上のネットいじめは、大きな課題であると捉えております。ネットトラブルの内容としては、チェーンメールの送付、続いて掲示板やLINE等での誹謗中傷、迷惑メールという順になっております。</p>
会長	<p>はい、ありがとうございます。4％というのは思ひたよりも少ないな</p>

	<p>という印象があります。これは高校生に多く見られますか。</p>
<p>教育庁 義務教育課</p>	<p>この調査は、小・中学校のみを対象としています。</p>
<p>会長</p>	<p>高校生については分からないということですね。金田委員どうぞ。</p>
<p>金田委員</p>	<p>そのネットトラブルが、このいじめの認知件数の上昇に影響しているのですか。</p>
<p>教育庁 義務教育課</p>	<p>影響していないとは必ずしも言えません。しかし、いじめの認知件数の増加に関して、毎年分析しておりますが、学校の捉え方が、からかいやふざけをいじめと認知し、即時対応しようという方向に変わってきており、今まで以上に子どもを観察し、子どもが安心して学校生活を送ることができるように対応してきた結果と捉えております。</p>
<p>会長</p>	<p>金田委員、よろしいですか。</p>
<p>金田委員</p>	<p>SNSで大人の社会でも自殺者が出たりすることもあるので、このいじめの件数についての考え方は分かりましたが、見えないところでのいじめについても注視していただければと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。 私学に対するハード面の支援の仕組みというのは何かございますか。</p>
<p>教育庁 総務課</p>	<p>私学については、国からの補助もありますが、県内の県立学校の整備が進んだことに合わせまして、私学でのICT整備についての支援について、教育庁総務課で検討しております。そういったものを活用していただき、来年度以降、整備を進めていただければと考えております。</p>
<p>会長</p>	<p>他はいかがでしょうか。岩崎委員どうぞ。</p>
<p>岩崎委員</p>	<p>計画の中で少し気になったところがあります。26ページの、支援を必要とする親へのサポートの下の部分に、母子家庭の年収240万円以上の世帯の割合と書いてありますが、ひとり親世帯というのは 母子世帯と</p>

	父子世帯の両方があると思います。あえて母子世帯のみこのように記載したということは、何か意味があるのでしょうか。
会長	事務局、いかがでしょうか。
地域家庭 福祉課	もちろん、ひとり親世帯には、父子世帯もございます。しかし、ひとり親世帯のうち、母子世帯の一番の問題は経済的なことであり、パートや非正規の雇用で、非常に年収が低いのが特徴です。一方、父子世帯は、経済的な面では一定程度収入が確保できています。ただ、逆に父子世帯の方は、子供に対する接し方が分からない、相談できる人がいない、ということが課題になっておりますので、父子世帯については相談体制の充実に関して対策していく必要があると感じております。父子世帯、母子世帯ともにそれぞれの課題はありますが、父子世帯についての課題について、こちらには書いておりませんでしたので、入れるように検討したいと思います。
会長	状況が違うので異なる対応が必要ということで、ここは資料に反映していただければと思います。 他はいかがでしょう。笈川委員どうぞ。
笈川委員	先ほども話題に出たいじめ防止対策の推進に関してです。41ページですが、秋田県にもいじめに関する予防指針がありまして、各市町村立小中学校で、個別の指針等を策定されていると思います。他県においては県や市が独自に、重大な事案が発生した場合のマニュアルを策定している自治体もございます。しかし、秋田県ではそういったものが策定されてはいないようですので、このプランに反映されない場合でも、マニュアルの策定について早期に進めていただければと思っています。
会長	ありがとうございました。 この点について事務局はいかがでしょう。そういった動きがあるのかどうかも含めてお願いします。
教育庁 高校教育課	ご指摘のありましたいじめの重大事案に関する県のガイドライン作成についてですが、国で重大事態に対するガイドラインを作成しておりまして、それに従い対応するという事で考えております。具体的な県の

	<p>ガイドラインは現在ありませんが、発生した際の調査報告等についての流れにつきましては、県のいじめ防止等のための基本方針にしっかり記載されており、県のいじめ問題対策審議会における対応についても記載されております。今いただいたご意見は、持ち帰らせていただければと思います。</p>
<p>教育庁 義務教育課</p>	<p>笈川委員にも参加していただいた、年に1回開催しているいじめ問題対策連絡協議会で、今年度は重大事態をテーマに、委員から様々な意見をいただき、リーフレットを作成しました。学校がいじめを積極的に認知していくという話が先ほど出ましたが、重大事態に至らないということが非常に大切であります。いじめが重大事態に至らないために、それぞれの機関と連携しながらどう対応すべきかをリーフレットに記載し、ホームページで配信することで、公立の場合、各市町村のガイドライン作りに役立てていただくことができないか、と考えております。貴重なご意見ありがとうございました。</p>
<p>会長</p>	<p>笈川委員よろしいですか。はい、どうぞ。</p>
<p>笈川委員</p>	<p>実際に重大事案が発生した際、対応を担当の先生や主任の先生に丸投げしているということで問題がこじれる、という意見が日本弁護士連合会からあがっています。そのため、41ページの記載の中に、すでに「組織的に対応し」という記載があるのですが、可能であれば、「先生を孤独にさせない」、「複数で対応していただく」、「一人に任せず」という一言だけでもいいので入れていただけると助かるな、と思っています。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。ここもぜひ反映させていただければと思います。</p>
<p>熊谷 隆益委員</p>	<p>この資料を今回初めて拝見したのですが、全体的に見てそれぞれの部分まで目配りができており、課題なども非常に正確に積み上げられ、素晴らしいなと思いました。</p> <p>秋田県の子供達は、家庭・地域・学校の中で頑張っており、非常に良い環境で成長しているのだな、と改めて認識したところです。</p> <p>現在、社会は縛るものから自由へと向かっており、その方向性が様々な部分に影響していると感じます。その中で、残念ながら格差は開きつ</p>

つある状況であると感じますし、また、デジタル化は進み、これも止めようがないことだと思います。

今後の子どもたちの育成の仕方も、その方向性の中で、良いところ、課題となるところが色々出てくるだろうということを念頭に置きながら施策を進めてほしいです。

例えばデジタル化についてですが、個人的な話をすれば、私達はスマートフォンが操作ができず、今の小・中学生の方が操作が上手なのが当たり前の時代になっています。教育の場面においても、端末が配られるということで良い面があると思います。それを子供達にとってどのようにプラスにしていくか、ということが非常に重要だと思います。しかし、先生たちの負担がそれによってまた増えるであろうことも危惧します。また、様々なトラブルに対応できる人材を学校に配置することや、家庭のwi-fi整備をどうするか、ということに付随した金銭面の問題も出てくると思いますので、そういった課題を見越しながら進めてほしいと思います。

また、SNSのトラブルについて、学校でも注視していると思うのですが、非常に難しいと思います。しかし、人によっていじめが起こり、その結果、重大なことが起こるということを考えれば、難しいけれども、なんとか方法を見つけ、課題を解決していかなければならないと思いますので、どうかよろしくお願いします。

それから、私たちの組織も高齢化しており、担い手が少し心配になってきている事情もございますので、そこは自分たちで考えるしかないと思いますが、そういう時にはどうかご相談に乗っていただきたいなと思っております。

最後になりますが、子供達は皆さんのおかげで順調に成長していると思うのですが、県の最大の課題である出生数が、とうとう5,000人を切ってしまいました。これによって、色々な所で大きな影響が出ています。学校の統廃合だけでなく、伝統芸能継承など、そのような部分についても非常に課題が大きくなってきているようなので、なんとしても出生数の減少の歯止めをお願いしたいと思います。

会長

ありがとうございます。これからの子ども・若者の育成についての基本的なスタンスについてのコメントかと思います。子供たちを取り巻く環境というのは本当に激変していますので、それに対応するためには、現場の意見をしっかりと吸い上げ、それを整理し、早い段階で手を打つ

という柔軟性・弾力性が我々大人に求められているのだと思います。今後ともよろしくお願いします。

他に何かございますか。

(意見なし)

それでは、私の方で、出てきた意見の整理をさせていただきます。

まず、GIGAスクール構想ですけれども、現場ですでに混乱のようなものが起きているので、大きなガイドラインを早急に策定し、それをもとに各市町村が現場で柔軟に対応する必要があると思います。これはプランの文言というよりも、現場での運用に関して、段階的な対応がますます必要になってくると思いますのでよろしくお願いします。

次に、文言の整理についてです。どうしてもこの手のものは抽象度が高い表現にならざるを得ないのですが、少なくとも一読して分かるような文章になるように、もう一度工夫していただきたいと思います。

また、SNSを通じたいじめに関しては4%ということで、思ったより少ない印象がありますが、これは事前に対応するため少ないという説明がありました。これからますますスマホの普及は進むでしょうし、この手の問題は増加傾向にあると思いますので、しっかりした対応が引き続き求められると思います。

また、端末配布に係る私学への制度についても、国と連携して検討・推進していただきたいと思います。

ひとり親世帯に関しては、母子家庭の年収に対して指摘がありました。ただ、母子家庭のみならず、父子家庭に関してもきめ細かな対応が必要ということで、ここにどのような文言を入れるか検討していただきたいと思います。

いじめ対策に関しては、国のマニュアルを参考にしながら、県もやっていくとのことですが、特にいじめ対応の現場の先生は非常に苦労されておりますので、周りがサポートするというような文言を入れていただきたいと思います。

熊谷委員の方からは、これからの子ども、若者の育成のあり方についてコメントがございました。このことに関しても、もう一度検討していただいて最終案に盛り込んでいただきたいと思います。

これらのことに関しては、事務局で整理、修正した後、私の方で確認していただきたいと思いますので、委員の皆さん、それでよろしいでしょうか。

	<p>(異議なしの声)</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>もし言い忘れたことがありましたら、1月27日まで受け付けますので事務局の方にお知らせいただければと思います。</p> <p>それでは、次に、次第(4)の報告等にうつります。優良図書の推奨及び有害図書の指定について事務局から報告をお願いします。</p>
事務局	資料5により事務局から説明
会長	<p>ありがとうございます。ただいまの説明について、質問等ありましたらお願いします。</p> <p>(意見なし)</p> <p>よろしいですか。</p> <p>それでは最後に、その他について、何かありましたらご自由にご発言をお願いします。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>では、ないようですので今日の審議はこれをもって終了します。委員の皆様、改めまして貴重なご意見ありがとうございました。進行を事務局にお返しします。</p>
事務局	<p>委員の皆様、ありがとうございました。</p> <p>第3次あきた子ども・若者プラン策定までの今後の流れについてご説明します。答申をしたプラン案については、秋田県議会2月議会の総務企画委員会で説明し、県議会からの意見等を踏まえ、3月に策定した後に公表周知します。今年度の青少年健全育成審議会親会が本日になります。</p> <p>なお、環境浄化部会につきましては、3月12日に開催を予定しておりますので、部会所属の委員の皆様にはよろしくお願いします。</p> <p>それでは、これをもって審議会を終了いたします。本日は大変ありがとうございました。</p>